

去る1月30日、泉佐野市（大阪府）と当市との間で、「歴史的ご縁が結ぶ地域産業の活性化協力協定」を取り交わしました。

「なぜ泉佐野市と協力協定を結ぶことになったのか？」と疑問に思う方もいるでしょう。答えは協定の表題にあります。それは当市と泉佐野市とに深い“歴史的ご縁”があったからです。

江戸時代のことになります。和泉国佐野浦（現在の泉佐野市）に食野家という廻船問屋を営む豪商がいました。一方、にかほ市平沢にも、当時の仁賀保領のみならず、由利地域一帯の蔵米などを手広く商う廻船問屋、斎藤市兵衛家（現在の㈱飛良泉本舗）がいました。大きな北前船を持つ食野家は、由利地域一帯の蔵米を斎藤市兵衛家から買い付けるなどして巨財を築いていきました。

他方で、斎藤市兵衛家も、出羽において、豪商食野家の出張所的役割を担うことで、財力と信用力を高め、仁賀保家を経済的に支えていったわけです。言うなれば両地域の発展と繁栄において、食野家と斎藤家は切つても切れぬ仲、分かれ難いパートナーだったのです。

去る2月14日、国立極地研究所と当市との間で包括連携協定を締結しました。

皆さんにとって、国立極地研究所という名前はあまり馴染みのないものだと思います。けれども、当市にとってはたいへんゆかりの深い機関なのです。

同研究所は、オゾンホールを発見するなど、数々の国際的な研究成果をあげている、南極、北極を研究する国内最高峰の機関であり、南極観測隊を組織し、派遣する組織でもあります。

当市は、これまで同研究所から白瀬南極探検隊記念館の調査・研究事業のみならず、市民への教育活動に対し協力をいたしました。

両者の縁については一つのエピソードがあります。白瀬艦が同研究所以のスタートに大変重要な役割果たしていたという事実です。

それは、戦後日本が南極条約に参加しようとしたときのことです。敗戦国日本への冷たい空気感がありました。それを一掃したのが、白瀬南極探検隊が残してくれた実績だったのです。



にかほ市長
市川雄次

“歴史的ご縁 “がつなぐ” 新たなご縁”

■泉佐野市とのご縁

去る1月30日、泉佐野市（大阪府）と当市との間で、「歴史的ご縁が結ぶ地域産業の活性化協力協定」を取り交わしました。

「なぜ泉佐野市と協力協定を結ぶことになったのか？」と疑問に思う方もいるでしょう。答えは協定の表題にあります。それは当市と泉佐野市とに深い“歴史的ご縁”があったからです。

江戸時代のことになります。和泉国佐野浦（現在の泉佐野市）に食野家という廻船問屋を営む豪商がいました。一方、にかほ市平沢にも、当時の仁賀保領のみならず、由利地域一帯の蔵米などを手広く商う廻船問屋、斎藤市兵衛家（現在の㈱飛良泉本舗）がいました。大きな北前船を持つ食野家は、由利地域一帯の蔵米を斎藤市兵衛家から買い付けるなどして巨財を築いていきました。

他方で、斎藤市兵衛家も、出羽において、豪商食野家の出張所的役割を担うことで、財力と信用力を高め、仁賀保家を経済的に支えていったわけです。言うなれば両地域の発展と繁栄において、食野家と斎藤家は切つても切れぬ仲、分かれ難いパートナーだったのです。

■国立極地研究所とのご縁

去る2月14日、国立極地研究所と当市との間で包括連携協定を締結しました。

皆さんにとって、国立極地研究所という名前はあまり馴染みのないものだと思います。けれども、当市にとってはたいへんゆかりの深い機関なのです。

同研究所は、オゾンホールを発見するなど、数々の国際的な研究成果をあげている、南極、北極を研究する国内最高峰の機関であり、南極観測隊を組織し、派遣する組織でもあります。

当市は、これまで同研究所から白瀬南極探検隊記念館の調査・研究事業のみならず、市民への教育活動に対し協力をいたしました。

■今後について

前述したように、国立極地研究所とは、これまで多分野にわたり連携してきました。例えば今あるものとして、南極昭和基地で使われている縦型風車の実験機が、南極の気象条件に近い仁賀保高原に設置されています。また、多くの南極観測隊OBの方々から市民講座の開催にご協力いただいております。今回、協定を締結したことで、これらの活動がさらに飛躍することが期待されます。

泉佐野市とは産業面で協力していくことを約束しています。先ずは出来るところからですが、一つは泉佐野市内にあるアンテナショップや関西国際空港内に、当市の特産品を陳列していただくようお願いしています。また、両市がそれぞれのイベントなどに参加しながら、ともにPR活動を行うなどして、相互交流を活発にして行きたいと考えています。



三和精鋼株式会社

私たち、鉄、ステンレス、アルミニウムなどさまざまな金属材料を切断・加工し、「もののづくり」の土台となる金属部品用材料を供給する仕事をしています。若い従業員を中心非常に明るい現場で、初めての方でも、安心して仕事を学べる環境があります。昨年11月には新しく建設された現在の工場に移り、綺麗な環境の中で快適に仕事をしています。先進分野である航空機材料を取り扱っている点も魅力の一つです。この仕事は、単に機械操作だけを覚えれば良いというものではなく、経験を積み重ねることで、作業工程を工夫し、それが更なる品質の向上に繋がります。自分が思っているものを確実に作れるようになり、顧客先から喜ばれたときが本当に良かったと感じる瞬間です。「地域未来牽引企業」として、地元に貢献できるよう日々頑張っています。

仕事以外にも、フォトコンテストや運動会など社員同士の一体感をもたせるイベントがあつたり、作業効率を上げるアイデア募集があつたりとさまざまな取り組みが行われています。

企業情報

当社は、昭和56年10月に創業し、産業・製造機械・航空機・金型向けの素材供給を業務として行っています。多品種小ロットに対応するため、24時間3交代勤務で稼働し、高精度・短納期に対応した金属加工事業は、鉄鋼・非鉄金属フライス加工のパイオニアとして、取引先からも高い評価を得ています。また、平成21年からは航空機材料（QQ-A）の加工事業に進出し、日本でも有数の航空機材料供給メーカーとなっています。平成29年12月には、経済産業省から地域の経済活動を牽引する「地域未来牽引企業」として認定されています。平成30年11月には、東北最大規模の新工場を建設し、本社機能を移転して更なる発展を図っています。

所在地	にかほ市芹田字六坊 15番(本社・新工場) にかほ市飛字餅田 13番地1(アルミ工場)
主な業務	鉄、ステンレス、アルミニウム等の切断販売、フライス加工販売、2次加工
従業員数	132人
電話	38-3811
e-mail	info@sanwa-pc.jp
ホームページ	http://www.sanwa-pc.jp/



あらゆる金属の
ストライスに挑戦します！

「ものづくり」の
土台を支える職場です



市では、「にかほbizまるっと！」に掲載する市内企業を募集しています。若者や女性の採用に積極的な企業やイチ押しの魅力などを持っている企業を紹介します。詳細は市ホームページをご覧いただくなお、商工政策課（☎43-7600）までお問い合わせください。

